

令和4年度第2回教育課程編成委員会 議事録

【日 時】令和4年12月11日（日）14：00～15：30

【会 場】こころ医療福祉専門学校 3階 講堂

【委 員】出席：大木田治夫，志岐浩二，高比良宏輔，松永正司，

石原義大，森崎太一，川崎和幸

藤原善行，小野格，高田一樹，松下周平

中野仁，大石勝規，谷口幸太郎，永田俊晴，高橋美如

(敬称略)

1 開会の辞（司会 教育部課長 中野仁）

本会の開会目的の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 教育部課長 中野仁）

各委員の紹介を行う。

3 委員長挨拶（校長 藤原善行）

(1) 令和4年度第1回教育課程編成委員会以降の取り組みについて

(2) 令和4年度第1回教育課程編成委員会での提言・意見の成果・課題・進捗について

(3) 令和5年度の取り組みについて

4 理学療法科

(1) 現状報告（大石）

前回の提言について

ア コロナ禍の影響による学生の学習面，社会性および精神的なフォローについて担任との面談を定期的実施している。不安な面などを確認し，適宜，指導を行っている。無断欠席，成績不振の場合に，本人及び保護者への状況の確認と共有を行い，欠課講義の学修のフォローを補講や資料確認・課題などで実施している。

イ 臨床実習指導への教員参画について

教員の臨床参加については，協力病院や頻度など，引き続き検討していく。今年度の1年生よりタブレットを配付しており，学習進度をリアルタイムで教員も共有できる仕組みを検討中。具体的にはGoogle Classroomなどの活用など検討している。

ウ 生涯学習推進や職能団体としての制度やメリットの教育，促進
必修科目「理学療法管理学」において，長崎県理学療法士協会小泉副会長により職能団体の意義，生涯教育の意義・システムの概要，職業倫理について講義いただいた。

エ 社会性について

新卒者も同様の課題をもつものも多いが，「学校に来ていれば良い。実習に来ていれば良い」と考えている学生が少なからずいる印象がある。臨床実習でも自ら学ぶ姿勢が乏しく，指示待ちになっているのは悲観するところである。臨床現場を意識した教育で，学生が意欲をもって学ぶ姿勢を有する人材像を期待するところである。

オ 臨床実習の教員参画について

タブレットの活用などで，リアルタイムに学習進度を確認できることは，学生にとっても良いことである印象がある。

(2) 新しい取り組みについて

ア 入学前教育を変更し，より総合的な基礎学力向上を促すように変更した。

本学他学科や全国的にも多くの養成校で用いられている「Benessグループ進研アド専門学校事業部」の教材を活用して入学前教育を展開していく予定。学生の基礎学力低下や，未熟な進路意識についてのバラツキに対して，基礎的な医学的内容のほか，日本語力，コミュニケーション力も取り入れた教材による入学前教育に取り組み，入学前の学生の学力や学習意欲の把握に活用したい。

イ 入学前教育について

職能団体である日本理学療法士協会や全国リハビリテーション教育協会などが理学療法士養成に支援してくれるよう提言することも意見いただいた。高校生の時から入学前に学べる内容の学習内容をまとめたものを提言していただける。

(3) 委員意見

○大木田委員

前回の御提言より

ア 社会性について

資格取得後3～5年での退職者の中にも，専門領域の分野の変更や，現状に不安を感じ環境を変えたいという意見もみられる。理学療法士を志し，就職先を検討する学生の頃からの意識として「何を学ぶのか。どういう理学療法士になりたいのか」を明確にできる学生は成長するのではないかと考える。

どのような卒業生が求められるかという点，「自分で考える力を持つ人」ということ

も、学校に対して、期待するところである。

イ 臨床実習指導への教員参画について

ICT（情報通信技術）を活用したコミュニケーションは、臨床現場でも促進してきており、効果的使用は望ましいことである。

ウ 臨床実習について

臨床実習の場面でコロナ禍ということもあり、体調不良になった時の連絡の手順を明白にしてほしい。実習先に連絡が来なかったり来なかったりしている。実習に入る前に体調不良などの場合はどのような手順で連絡するのか指導をお願いしたい。

エ 卒業生のフォローについて

卒業生も卒後さまざまな悩みを持っている。1～2年で辞めてしまうこともある。卒業後も学校側と施設が協力してフォローできる体制を整えていただきたい。

○志岐委員

ア ICT教育の弊害について

ICT教育の弊害として、テキスト（活字）を読まないようになってきているのではないかと感じる。WEB等で調べてばすぐに出てくるため、他の考えを持たずにその情報を鵜呑みにして他の意見が出ない。また、実習中にメモを取らないようになってきていると感じる。便利になっているが、実際に活字に表せない事例などが多く、WEBに載っていることが全てではないということを教える必要があるのではないと思う。

5 介護福祉科

(1) 現状報告（谷口）

第1回の議題について

ア 「国語表現」の成果の報告、および今後について

文章能力の向上については、前期15コマの中では大きな成果を上げることが出来なかったが、学生の文章能力の把握、及び課題把握においては成果があった。今後については、そもそも文章を知らない学生が多いため、文章を「読む」からスタートし、文章を「書く」につなげる内容で授業内容を検討している。

イ 実習時の学生提出書類の改訂について（令和5年度に向けて）

理学療法科の実習書類を参考に、実習施設との連携、および実習内容を明確にするため、第1段階実習から第3段階実習まで継続的に使用できる書類へ改訂予定である。

ウ 准介護福祉士の資格について

令和4年4月より施行となった「准介護福祉士」の資格について、現場での認知度、および現在の状況について確認

(2) 委員意見

○高比良委員

ア 第1回の議題について

「国語表現」の成果の報告、および今後について、授業の中で「実習記録」のようなものを書く習慣を作れるとよいのではないか。クラス全員が同じものに取り組むことで、上手に書ける学生と、上手に書けない学生がでてくると思う。上手に書ける学生は「教える」ことができ、上手に書けない学生は書ける学生の文章を見ることで書き方を学ぶことができるのではないか。

数年議題に出てきているが、学校でも様々な取り組みをしていただいていることで学生が少しずつ書く意識が出てきていることを汲み取れる。学生が記録を書く中で、指導者から指導された内容を自分の気づきとして記録することがある。5W1Hでの文章の書き方や今後どうするか具体的な内容が抜けていることがあるので、引き続き指導をお願いします。

イ 実習時の学生提出書類の改訂について

第1段階実習から第3段階実習まで継続して使用するのであれば、「問題あり」「問題なし」といった否定的な表現より、具体的にこれというのは今浮かばないが、「頑張っしてほしい」という前向きになれるような気持ちが現れた表現がいいのではないか。実習参加シートの項目には、「コミュニケーション」や「記録」の項目、「早出」や「遅出」「夜勤」の経験などが分かるとういのではないか。

ウ 准介護福祉士の資格について

まだ現場での認知度はほとんどないのが現状。経過措置との関係も不明な点がある。准介護福祉士という資格への対応については、これから考えていくということになると思うが、給料等の待遇面には差が出てくると思う。学校には、施設への発信をお願いしたいと思う。

○有村委員

第1回の議題について

ア 「国語表現」の成果の報告、および今後について

介護過程の展開のような取り組みをしてもいいのではないか。実際に書いた記録をグループで検討し、良いところと改善点を把握し、課題を明確にし、どうすればよ

り良くなるのかを検討してもいいと思う。他者の記録のいいところを学び、自分自身の記録の改善点を知ることができるのではないかな。

イ 実習時の学生提出書類の改訂について

第1, 第2段階実習の目標からその反省点, 反省点を踏まえて第2, 第3段階実習の目標を立てたことが, 1つの書類にまとまっていることで, 分かりやすくてよいのではないかな。実習参加シートも一つ前の実習で, どこまで学んだのかがわかりやすく, 実習指導者としては指導がしやすい。

ウ 准介護福祉士の資格について

現場での認知度は高くないのが現状である。日本介護福祉士会としてはそもそも「准介護福祉士」については反対の立場であった。現状施設として, 対応が何か決まっているわけではないが, 「准介護福祉士」については給料などの待遇面について, 差がでてくるのではないかなと思われる。学校としては, 今度卒業生のいる施設などへ周知が必要となってくるのではないかな。

6 スポーツ系科

(1) 現状報告 (永田)

○松永委員

ア 就職について

早い段階からの就職説明会は, 自分自身が適応できる職場 (環境) であるかどうか選択するにあたり大変有意義なものだと思う。また, 目標になる企業や職場ができれば資格取得に向けての学習意欲の向上にも繋がる。それから, 就職説明会の面談方法についても個人や集団 (少人数) での開催や, 夏期・冬期の休み期間に職場に出向いて施設の見学等実施し, 学生の希望や特性と就職先とのより良いマッチングを試みるのも一考である。そして, 卒業生が早期退職や問題があった職場に対しては, 学校としてしっかり精査し環境が整備されているかどうか判断することなど, 招致する企業の選択基準の一つにしてみてもどうかと思う。

イ 低学力者への対応について

最近では, 入学前教育は殆どの大学や専門学校で実施されているのが現状である。入学後の学校生活をスムーズに開始できるよう, 学習や学生生活に関する不安や悩みを解消する事を目的に実施されている。必要不可欠な取り組みで中途退学の予防にも繋がると思うので, 是非実施をお願いしたい。

※保護者や関係者等に参加を呼びかけ, 新入生や保護者の不安払拭と学校宣伝に繋がる。

【入学前スクーリングの内容】

- ①学校内施設の見学
- ②先生や先輩によるガイダンス（3年間のカリキュラム・卒業・就職までの設計図）
- ③新入生同士や在校生との交流
（学習で躓く科目や入学前に知っておくと得する事案など）
- ④簡単な模擬授業（教員による骨格部位名称の説明など）
- ⑤教材の事前配布（入学前に今から学ぶ教材に目を通して貰う）
- ⑥自宅のネット環境整備のお願い（Web授業対応のため）

○古川委員

ア 就職について

企業説明会を開催する前に、あらかじめ学生に自分が就職先に求めることや就職希望地、希望職種（整骨院・整形外科・介護施設）などを学校側が把握することができれば、招致する企業を選びやすくなるのではないかと思います。また、学校が選ぶのではなく、過去の参加企業や学校に届いた求人票を学生に閲覧させ、学生に話しを聞きたい企業を選ばせるのもいいのではないかと思います。また、説明会へ参加させる前に、学生に質問内容や企業からの質問に対する受け答えをまとめさせていけばより有意義になるのではないかと思います。

イ 低学力者への対応について

高等学校までの勉強内容と専門学校の勉強内容がかけ離れているため、入学してすぐは学生の戸惑いが出てしまうと思う。1年生の段階から国家試験問題を解かせ、問題慣れさせておくのも良い。また、説明文や問いかけがややこしいこともあり、問題から答えを導き出すことが苦手な学生もいるので、答えを導き出す手段も早い段階で指導した方が良い。オープンキャンパスなどで簡単な問題を配布してみて、国家試験のイメージをつけさせてみてもいいのではないかと。

○石原委員

ア 就職について

大手の企業やグループ展開をしている企業は、知名度が高いので学校側から特別なことをしなくとも就職していく学生はいると思う。個人で経営している企業に務めたい学生もいると思うので、学生から興味のある企業をあらかじめ聴取する機会を設けてもいいのではないかと。また、近年は整骨院に就職する以外に、整形外科や介護施設に就職を希望して入学する学生も多いと聞く。企業説明会も整骨院のみではなく、そういった企業を招致し、学生の選択肢をより広げてもいいのではないかと。

イ 低学力者への対応について

入学前教育（授業）は、入学前から国家試験の難易度をある程度イメージさせられることに繋がると思うので、ぜひやるべきだと思う。ただ、授業だけでは硬い印象を持たれてしまい、入学前にやる気を削がれる可能性もあるので、楽しんでもらうことをメインに据えた方がいいと思う。入学前教育ではないが、1年次から何度か外部実習を行い、実際の施設内でしか学べない雰囲気味わわせ、興味・関心の継続を図っていくことも大事だと思う。

(3) 委員意見

○松永委員

ア 就職について

私たちが企業に勤めるのに信頼関係が大事であった。就職先に憧れを持ち、学力向上のモチベーションになっていた。就職説明会については短い時間で聞きたい事と伝えた事をできるだけ学生に多くのチャンスを与え、学生ファーストで行っていただくことで離職も減っていくのではないかと思います。

イ 低学力者への対応について

学校学科共に最大限の努力はしていると感じる。あとは学生の質の部分になると思う。学生面談やコミュニケーションを密にしてがんばっていただきたい。

ウ 入学前スクーリングについて

私自身が入学する際も同じような入学前教育があり、先輩やOBなどが指導してくれた。このようにすれば良いなど助言を行ってくれた。

○石原委員

ア 就職について

臨床実習の際に最終評価を行うが、学生の自己評価の方が高い傾向にある。出来ている出来ていないで評価するのではなく、取り組む姿勢で評価をしなければ学生との評価にギャップが生まれ、資格取得のモチベーションを削ぐのではないかと懸念しながら実習の評価をしていることが現状である。

7 スポーツ鍼灸科

(1) 現状報告（高橋）

ア 臨床実習の受け入れについて

イ 入試について

ウ 長崎県鍼灸師会への卒業生の入会について

○川崎委員

ア 臨床実習の受け入れについて

(高橋) 第1回委員会で、外部での実習中の態度や行動が、実習生によって大きく異なると指摘をいただいた。態度や行動の差は、開業や就職をどのくらいイメージしているかなどの意識の差の現れで、外部実習で何を見学・体験するかを学生自らが目的を明確にする必要があると意見交換を行った。そこで、目的意識が薄いまま外部実習へ出る学生がいる状況を改善し、より充実した外部実習を行うために、まずは学内での臨床実習を充実させようと思う。そのため、外部に行く日程を5日間から、2日間として、その前後に学内施設での実習中に、「見学」・「体験」・「振り返り」・「意見交換」を繰り返すを行い、外部実習における目的の明確化を学生自身が行っていくようにはかりたい。

(川崎) 今まで5日間で実習受け入れを計画していたので、内容を変更しないといけないが、受け入れも4年目となり、内容を変更・改善していくことは必要と思う。また、5日間連続での実習は、今の学生には体力的にきついうので、緊張で倒れる人もいた。いったん外部実習2日間でやってみるという計画は了解した。

あと、治療院をとりまく状況も変わっていきいているので、今の学生が何を見たいと思って実習に来ているのかを知りたい。訪問鍼灸の帯同やテーピングの解説などもしているが、事前に学生が何を見学したいのかを知ることができれば、できるだけ対応したい。

(高橋) 大変ありがたい。見学すべきことを教員から伝えてもなかなか伝わりきらないところがある。学生自身が考える機会を作りたい。事前に外部実習で何を学びたいのか、何を見たいのかを考え、目的意識をもって能動的に実習に臨めるようにしていきたい。

○森崎委員

ア 入試について

(森崎) 入学試験ではどんな試験をしているのか。学力が低い人は落とすのか。

(高橋) 面接と筆記試験を行っている。学力に関しては、入学後しっかり勉強することで国家試験に合格することはできるので、高校生までの成績が不良であったり、当日の筆記試験が多少低得点であったりしても不合格になるとは限らない。面接中の態度や受け答え方、内容については丁寧に見させていただく。鍼灸は実技で相手に鍼で傷をつけたり、灸で火傷をさせる可能性がある。教員の説明や注意が伝わってはじめて安全な範囲で行えるので、こちらの意思が伝わらない人は鍼や灸の実技を行えない。

イ 長崎県鍼灸師会への卒業生の入会について

(森崎) 今年は何年生は何人か。最近、鍼灸師会の新規入会はこころ医療福祉専門学校の卒業生のみなので、できれば多く入会してほしい。

(高橋) 今、3年生は16名で、大半は長崎県内に就職すると思う。学生にはできれば鍼灸師会に入会して、正しい保険請求の知識を身につけ、地元の鍼灸の先生方とつながったほうが良いと説明している。働き出すと、施術や患者さんのことで悩んだり行き詰ったりするので、相談できる先輩や仲間がいることは鍼灸師として働き続けるうえでとても大切と思う。鍼灸師の先輩として、業団の会長として直接学生に話していただけたら学生も鍼灸師会に入会しやすくなる。

(森崎) そのような機会があればぜひ説明したいと思う。

(2) 委員意見

○森崎委員

全国的に鍼灸師会が衰退しているが長崎県は維持、または増加している。都市部では退会して減少しているのが現状である。鍼灸師会に入会することでのメリットもある。他県では有料であるが、長崎県は保険申請ソフトを無料で配布している。(鍼灸師会の年会費のみ)。このような取り組みについて学生に話していないとのことであったため、もっと話をしてほしい。また、機会があれば説明会を実施させていただきたい。

○川崎委員

他業種からの進学と高校新卒者では実習への取り組む姿勢に差がある。実習で何を見たいのかわからない学生もいる。実習前に何をしたいのか目的意識を持てるように事前に指導をお願いしたい。

9 質疑応答

(高比良委員)

令和4年度の実習の受け入れを行ったが、今年度は急遽受け入れ要望があったりして多く受け入れてしまった。次年度は学生実習の受け入れができるか検討している段階である。できれば人材の確保という面でも受け入れはしていきたいが、学校の方でも実習先の開拓を行っていただきたい。

(谷口)

居住地の問題もあるが、学生は佐世保地区・大村地区・諫早地区・島原地区など多岐に渡る。実習施設は長崎市内だけでなく、また、高齢者施設や障がい者施設など学生の要望にあった実習地の開拓を行っている最中である。

8 総括

(小野副校長)

①職業実践専門課程について

職業実践専門課程は全国的に期待値が高く、行政が支援している県も多い。長崎県専修学校各種学校連合会の長崎県知事陳情書の中に、職業実践専門課程に対して教育の充実を図る支援の動きもある。県内就職率は、大学は約 20%だが、専門学校は約 70%と高い水準を維持している。専門学校は県内就職率が高く、人を育てて長崎県の発展と人口流出の減少に貢献していることを県も認識していただいている。本校としてもご支援いただいでそれに答えていくつもりである。

②学生募集について

入学する時点で、自分がどうなりたいかイメージがついている学生が増えてきている。入学の時点で開業したいという学生は減ってきているが、大学を卒業して学士を取るだけでなく、国家資格を取得して医療従事者になりたいと考えている入学者は増加傾向にある。いずれの学科も前年度より次年度入学者は増加する見込みである。入学希望者が多くなれば、自ずと就職者も増えていくため、県内就職者を増やすことができるように今後も取り組んでいく。職業実践課程において、しっかりとした教育の中身を作り、質を高める事で学生の願いに答えられるように努めていく。